

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表①～⑤】

①

私たちのチームでは、農村を活かすためにどういったことをするか、また、障害をお持ちのお子さんとか不登校のお子さんがしっかり学べる場所、安心して預けられる場所を作りたいと話しました。1点目の農業に関してですけど、今、有機農業が盛んになってきておまして、農水省も2030年までに3割の農地を有機にするそういった指針が出されています。それを入善町は農村ですので、ぜひ有機特区というのを作っていただいて、今全然進んでいない農地の集積化も含めて、有機が思う存分できる場所を作るのはいかがでしょうか。私は富山市からやってきたのですが、農村の家のすばらしさ、特に庭のすばらしさ、畑、田んぼのすばらしさに魅了されています。なんの変哲のない庭の木なのですが、果樹やハーブなどいろんなものが植えてあります。そういったものをグリーンツーリズムということで活用できたらいいのではないかと思います。

知事：私たちが何の変哲もないと思っているものも違う人から見たら素晴らしいものなんです。ですから農村を活かす、農家の民泊あるいは農家レストラン、いろんなやり方があると思います。ごく普通の我々がやっていることを、それが素晴らしいことだとどんどんアピールしていく。それが農村を生かす素晴らしいアイデアだと思います。そしてダイバーシティやインクルーシブな時代。誰一人取り残さないという意味で、障害者も含めて、福祉でやることは大切なのですが。農福連携。障害のある人たちも働く場所があるというそんなこともこれから進めていきたいと思っています。最近富山市で新しいチョコレート屋さんができました。久遠チョコレートという。これは愛知県からスタートして今全国で32店舗あります。そのコンセプトは障がい者に働いてもらってより高い給料を払いたい。だから高級チョコレートなんです。だから作る人に高いお給料を払うことが出来る。なんでチョコレートかって言うと失敗してもまた溶かせば戻せるそうなんです。それも知恵ですよ。障害のある方、高齢者の方は福祉でコストだと思われる。そういう人たちに働いてもらってしっかりと税金を払ってもらう。行って来いの違いですから。そんな風に考えていきたいと思っています。

町長：町の基本産業は農業ということでありますし、一番に農業関係のことを言っていたことを嬉しく思います。入善町は県下でもトップクラスの集積率を誇っています。県内でも耕作放棄地がほとんどないところじゃないかなと思っています。若い方々を支えていくのも私たちの役目だと思っています。有機栽培もしっかりと県と連携しながら対策に取り組んでいきたいと思っています。また我々が普段見慣れている田園風景は、農家にある庭の形も含めたそういったものを地元の我々が認識をしながらPRしていくことがウェルビーイングにも繋がっていくのかなと思っています。最後の農福連携についても農業と商業と入善高校との連携

で、例えば唐辛子を作ってみたり。いろんなアイデアを出してもらいます。さまざまな取り組みをしていただければと思います。

## ②

私たちのチームでは、交通整理や高等教育、交換留学など様々な意見が出たんですけど、その中で、3つ絞らせていただきました。

イベント活性化とともに、女性ファミリー層に向けたイベント企画の推進ということで、今実行するにはどうすればいいのかということで、今ある環境や施設の有効利用、例えば、入善町のわくわくドームだったりとか、そういったところの施設は今誰でも使えるようにはなっていない、イベントを実現させるようになっていないとか、そういったことがいろいろあるので、有効利用をさせていただこうということ。それを踏まえて、イベントに出る若者が地域での活躍のために、広報教育。特に、皆様でしかできないようなバイオだったりとか、そういう物の充実化を図ろうということで、まず入善町に人を集めなければどうしようもない話になるので、地域住民と行政が手を取り合ってモチベーションを上げていこうという社会に目指したいなと私たちの話し合いのなかで行われました。

知事：民間がやることはどんどんやったださればいいんです。役所は余計なことはやらないほうがいいんです。とは言っても、規制の緩和とか使いにくさとかはご相談いただければ対応できるかと思えます。民間が主役なんです。役所はそれを支える、環境を整えるのが役目です。あと、先週、実は若者サミットというのをやっていました。今後高校生の声をどんどん聴くようにしていきたいと思えます。

町長：イベントの話がございましたけども、どちらかというとなら商工会、農協青年部などの気力があって、比較的、イベントの濃い、また、大きなイベントをいくつもやっていただいている地域だと思います。そのことで、元気なまちづくりにつながっている、土地の活性化につながっている。あるいは、中心市街地の賑わい創出も含めてほんとに一生懸命やっていただいているなと思えます。施設の有効利用との話がありましたが、それぞれ施設の目的もありますので、そこに触れない程度の利用であればいいかとも思っております。あと入善高校は県内でも農業科のある高校として、これまでも入善乙女キクザクラという新しい品種のものをすでに100本近くバイオを活用して増殖をしていただいた。今のわくわくドームの横にも24本、新しい桜の並木もいま作ったところがあります。最近では、入善町のエリアを超えて、魚津市の栽培研究にも手掛けておられ、高校生の皆さんに活躍していただいているところであります。入善高校農業科、一生懸命に頑張っているところで、農業科ばかりではなく、イベントも含めて、支援をしていきたいと思えます。

## ③

「幸せ人口1000万」の実現プロジェクトのアイデアとして、今日本中で大きな問題になっているのは、超高齢化、少子化これは大変な問題ですね。そういう時に、この「幸せ人口1000万」は夢がある。素晴らしいじゃないですか。僕はこういうときに常々考えていたんですが、入善町が24000人近くいるとすれば、ここで、縁故町民制度をもうけるべきだと思います。縁故町民制度とは、入善町からでている親戚・家族の皆さんも町の準町民化。名称はどういったものでもよいですが、町民がいつでも帰って来られるという、故郷を大切にすること

要があるのではないかと思います。そこで、富山県民も、今100万県民と言っていますけど、10人をそのように考えたら、1000万人、ビジョンが実現できるんです。人間の縁というのは、原因があって結果がわれわれの人生にはあるんです。そういうときに何が大切かという縁だと思います。そういった関係で、わたくしは、入善町の縁故町民という。そして、富山県の縁故県民制度をもって、そこで今度は、私たちの富山県にある米だとか野菜など、産業とのつながり、観光とのつながりを、さあ来てくれと。皆さんに富山県とはこういうところなんだと。そのことを是非実現して欲しいと思います。ありがとうございました。

知事：縁故町民制度まさにこれなんです。幸せ人口1000万。関係人口1000万を目指す基本はこれです。ぜひお願いします。入善町24000人、20万人程いけそうですね。盛り上げていきます。そんなところで、入善町ふるさと納税に対した、現実的なアイデアでした。これは発表されませんでした。老人は朗らかな人が今日は70代の方がたくさんおられますが、元気ですよ。すぐ我々行政は、高齢者・高齢化＝コストと思いがちですけど、そうじゃなくて、高齢者がいつまでも働かれて、周りの人に税金を払ってもらって側を回って。行ってこいからです。こんな大きな変革はないんですよ。どんどん元気でいつまでも働いていただきたいと思います。

町長：縁故町民制度、非常に参考になります。町に関係のある方に、ダイレクトメールを送って、町をPRしていただくこともしております。町を知っていただく大きなひとつのきっかけになるのではと思っています。それよりも人口をどう増やしていくかと精一杯頑張っているわけでありまして。そういったことも含めて、人口減少をいかに細くするかという取り組みも大事ですし、また、入善町にきていただいて、楽しんでいただくことも大事ですので、そういったことも含めて皆さんがたの意見を参考にさせていただいて精一杯頑張りたいと思います。

#### ④

夫婦円満であること、ご近所づきあい、婦人会・青年団の活動が少なくなっているという話になりました。減塩いいねという町の政策と絡めて解決策になるのではと考えました。弁当の日という取り組みがあります。これは小学校5-6年以上を対象の家から自分だけで作った弁当を持ち寄る。そこで学校では「私作ったんやぜ」という見せ合いっこするという友達の頑張っている姿を見て褒める。まず子どもたちを褒めると自己肯定力が上がる。自己肯定力が上がると生きる力に繋がる。生きる力が継続して積み重なっていくと親になったときに子どもを大切に育てる次の世代をつくっていくところに繋がっていくと考えています。家庭だけの問題ではなく、地域との繋がり。この3つの繋がりがないと達成されないと思います。少子化対策にも繋がっていくのではないかと。夫婦円満、家族の中も円満になる。地域のいろんな人が一次産業でおいでると知るきっかけにもなると思うのでぜひ栄養バランスだけではない食育活動を今すぐにでもできる活動として提案しています。

知事：弁当の日というのは今あるんですか？不勉強でした。すばらしいですね。自己肯定感どうやって上げたらいいか。具体的な案を出していただきました。地域で育てていくというのも今後の教育のテーマにしています。最先端ですね、入善町。そして近所づきあい。ウェルビーイングの大きな要素は、社会との繋がり。第一歩が近所づきあい。私は長寿会のメン

バーですが。そういったものも生きがいに繋がると思います。今どちらかというと、うざいというふうになっていますが、これを変えていく。地域のウェルビーイングに繋がると信じています。

町長：夫婦円満あるいは近所づきあい。特に最近では婦人会などが見られなくなってきたという意見は寂しい時代になっているなどと思います。地域コミュニティの醸成に繋がらない。むしろ希薄化を招くような状態ではないかと。自助共助のためにも地域が繋がることは必要になってきますので、行政としてもそういった活動がなくならないようにしたいと思えます。減塩運動については、生活習慣病の予防、健康寿命に繋がっていかうと考えております。塩分濃度は小さなお子さんの時に決まってしまうと言われております。保育所・低学年からしつけができる取組みをしているところであります。なんとか健康寿命を伸ばすための大きなきっかけになってくれたらと思います。

#### ⑤

観光に力を入れる。富山湾から能登に行くルートとか氷見に行くルートとか、海を使ったところで、呉西と呉東の近道を作るといいのかなと。人の交流もできるし富山をぐるっと遠回りで行かなくても良いのかなと。

それから特産品。入善にはジャンボスイカがありますけども。ブラウンラーメンやお酒、稲穂のジェラート。なかなか定着させるのは厳しく。かといってやめずにこれからも特産品を開発していくことで観光のアイテムになるのではと思っています。

県外に対するアピール力。特に10年前ラーメンまつりが大きくなる前はアピール力がなかったのですが。空地を無償で県外の人にプレゼントしてみてもどうかという案もできました。ZOZOの前澤さんのお金を配るような感じで、無償で土地がもらえる。SNS等を使ってはじめしゃちょーとかの力を使い、簡単に分かりやすくアピールしていけたら。

あとはシニアの活躍の場をつくる。うちの会社でも80歳近い方が現場で現役で働いています。そういう方たちを使ったベンチャー企業をやってみてもどうかという案が出ました。

知事：観光に力を入れていただくということ。まず特産品の開発ともリンクすると思いますが。入善町単体だとPR力が足りないんですね。是非県外から来られた方、失礼な言い方になりますが入善町のためだけに富山に来る方は少ないと思います。やっぱり朝日町や黒部や魚津とうまくルート化して、できればストーリーになるような風にして特産品も食べ物も流れがあるような商品として作っていけばよりアピールできるのではと思います。もちろん県としても大いにお手伝いしがいがあることなので、一緒にやりたいと思います。土地を配る。これは凄くインパクトのあることだと思います。まずは無償で貸すというのがいいかもしれません。無償で貸して何か活性化してもらおうというのがいいのかもしれない。

町長：観光に力を入れると言うと入善町にとっては少し頭の痛いテーマかと思いますが。言いながらも誇れる観光はあります。そういったものをどんどんPRしていくのも大切だと思います。富山湾には9つの市と町があるのですけれども、入善町だけには海岸線を走るルートがなかったということで牡蠣の星からキャンプ場までの新たなルートの開設を県にお願いさせていただきました。海岸沿いに点在する観光地を回るようになってくると思います。また知事さんがおっしゃったように近隣の街にも観光地がございますので、もっと新川エリア

での回遊性を図れるのではないかというところで、観光圏としてもお互いの市や町を回ってもらえるような体制を作っていかなければならないと取り組んでいるところであります。あと宅地を無償でという話もありました。できればいいんだろうと思いますがなかなか個人の財産でもあるので難しいのかなと思います。なるべく安いお金でお貸しする、あるいは譲るといふことであれば、また町の方も空き家の活用に登録して頂いて広く募集をしていければと思います。

#### 【参加者感想】

参加者：ここに来られている方は皆さん熱い想いを持って来られているんだなと。これがひとつでも実現したらいいなと思いました。

参加者：みなさんの熱い想いをすごく感じたなと。この場にいる方々だけではなくもっと人数を増やして各地区でやっていただいて熱い思いを皆さんに感じていただければと思います。

参加者：視点が様々で面白かったです。海外に向けた視点から夫婦円満の家庭内のことまで、私も女性としてまず家庭内のことから見直していきたいなと思いました。家庭内、地域、少しずつ県外へと進めていければと思います。

参加者：ご年配の先輩方のご意見、こういう風な場で意見を交わすことはなかなか無いので、貴重でした。男女問わず入善町を良くしたい、人を集めたい、もっとハッピーなまちにしていきたいという気持ちがみなさんから感じられました。何か一歩進められたらなと思います。

参加者：とてもワクワクしました。こういった機会があればいいと思いますし今出たアイデアも異業種の方とか年齢それぞれ交わることによって、違うアイデアが生まれるんだなということもこれから出てきたら楽しくなるんだなと思いました。

参加者：短い時間でしたがいろんな意見がきけておもしろかったです。みなさんまだまだ話したいこといっぱいあると思うので、将来のことをみんなで話し合うことって楽しいことなんだなって。こういう場がもっと増えればいいなと思います。

参加者：これだけたくさんの多様性のある方が集まり楽しい場でした。今日は一日一杯話しても足りないなと思うくらい楽しく思いました。

参加者：みなさんのいろんな希望や夢に感心しました。健康である限り自分の実現したい事を頑張りたいと思いました。

知事：今日事前に年齢構成を見ていたのですが、70-80代の方が多いんですね。どうなのかなと思いました。例えば舟橋村は若い方が多かったです。活発でした。でも今日は全く心配することなく元気な高齢者の方、だからここに来られたのかなとよくわかりました。

もちろん20-30代の方も良いアイデアをいただきました。まずは男女というダイバーシティ、年齢層のダイバーシティ、本当に基本なのでいろんな世代が意見を出し合ってまちをつくっていくということ、まさに今日はそれを凝縮した形だと思います。やっぱり時間足りないですね。それはお詫びします。これをきっかけにしてあとは勝手にビジョンセッションを開催していただきたいと思います。

参加者：知事も言われましたが、時間の制限がありすぎます。もっとフリートークという形で今後もこの形を続けてください。お願いします。

参加者：今日はすごく実りのある2時間でした。中には普段幅広い年代の中で喋ることなかなかないんです。みんなが一致しているのは入善町が好きということ。富山が好きなんだなということをとて感じられる会だったんじゃないかなと思います。これをいろんな地区で続けてみんなで喋って「あんなこと考えとるがや」というのを続けていけたらもっと楽しい意見がでるのではないかなと思いました。

参加者：私はこれから入善町の活性化のために商工会青年部はコロナ対策をしっかりしながらたくさんイベントを企画していきたいと思います。盛り上げていきたいと思います。

#### 【中尾成長戦略会議座長あいさつ】

感動しました。私入善大好きなので。私の弟の嫁はくぬぎ山からきています。私の長い社長時代の秘書は町長の義理のお嬢さんで。ここで経営塾をやっていたのですが終わったら牡蠣を食べに行って。本当にうまいですねあそこ。私ここの町議会議員のみなさんと仲良くいろいろなことを車座で話して。仲のいい人がたくさんいます。凄い方もたくさんいらっしゃるということで。老人クラブに入りましたけど老人になると老人と言われるのが嫌になってくるんですね。LIVE LONG LIFEで「3Lクラブ」に変えたいという話もありました。夫婦円満やご近所づきあいというお話もありましたが、よりよい地域の繋がりを築いて行って欲しいと思います。今日はありがとうございました。